

ドングリとアカネズミ



文と写真◎島田 卓哉 Shimada Takuya

野生動物研究領域

ドングリを食べるアカネズミ
アカネズミなどの野ネズミは
秋に大量のドングリを集めて貯食
することが知られている。

クマやサル、カケスなど森林に生息する動物にとってドングリは貴重な食糧です。なかでも、野ネズミはドングリを土の中に隠し、餌が少なくなる冬に備える「貯食」をすることで知られています。隠したドングリのいくつかは、虫に食べられたり、忘れられてしまうこともあります。忘れられたドングリは、うまくすれば芽生えて大きく育ち、またドングリを実らせます。

岩手県滝沢市の森林で約1万個のコナラのドングリを調べたところ、タンニン含有率が0.1〜34.5%と大きな違いがあることがわかりました。動物がタンニンを多量に摂取すると、消化率の低下や腎臓・肝臓への損傷が生じることが知られています。そのため、動物はタンニンを多く含む食物をあまり好みません。

野外でのアカネズミの行動を調べると、大きくてタンニンの少ないドングリほど食べられやすいこともわかりました。それならば、コナラは小さくてタンニンの多いドングリばかり実らせる方が、より多くのドングリを生き残らせることができそうです。でも実際は、大きなドングリやタンニンの少ないドングリもあります。

じつは、小さいドングリは芽生えも小さく、光を巡る植物同士の競争で不利になります。また、タンニンを多く含むと、植物の成長に必要な炭水化物などのほかの成分が相対的に少なくなってしまうのです。どんな性質のドングリが有利になるかは状況によって変化すると考えられます。さまざまな状況に対処できるよう多様なタイプのドングリを実らせるのが、コナラにはいちばん都合なのでしょう。

ちばん都合なのでしょう。

*植物に含まれる渋み成分で、ポリフェノールの一種。お茶や赤ワインなどにも含まれる。

ドングリの背比べ

ドングリは、コナラ、クヌギ、アカガシといったブナ科コナラ属(ナラ類、カシ類)の種子の総称。「ドングリの背比べ」といわれるが、同じ種類でも、大きさや性質はかなり異なる。



ドングリをくわえて運ぶアカネズミ

自分で移動できない樹木は、野ネズミの貯食などを利用して、親木から離れた場所に子孫を残すことができる。



この印刷物はグリーン購入法に適合した印刷業者を選定し環境配慮されたグリーンプリンティング製法で印刷しています。

24.3.8000

リサイクル適性の表示：紙ヘリサイクル可